

(様式第4号)

上田市公立大学法人評価委員会 会議概要

1 審議会名	上田市公立大学法人評価委員会 (第4回)
2 日時	令和2年11月9日 午後1時10分から午後5時10分まで
3 会場	長野大学4号館3階教授会室
4 出席者	平井利博委員長、今井裕委員長職務代理者、田村照子委員、城下徹委員、鳥居希委員
5 市側出席者	柳原政策企画部長、鎌原学園都市推進室長、宮原学園都市推進担当係長、倉澤主査
6 公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7 傍聴者	0人 記者 2人 ※説明者として、公立大学法人長野大学関係者出席
8 会議概要作成年月日	令和2年11月16日

協 議 事 項 等

1 開会
2 議事
(1) 公立大学法人長野大学 令和元年度業務実績評価の反映状況について (資料1)
○資料に基づき、法人が説明 (重点項目のみの説明)
(委員長) 授業アンケートの取り方や回収方法が具体的な動きが見えてきており、PDCAが動き始めている。 学内の情報インフラ整備が不十分との指摘があるが、具体的な対応はどうか。
(法人) コロナ禍のなかで、学生のインターネット環境は整備している。 大学院の設置も迫っており、建物や器具類の整備を進め、更新すべき機器は、更新している。大規模な機器の更新となると財務的に難しい状況となっている。
(委員長) 新型コロナウイルス感染症の影響で、授業の大部分がWeb形式となっており、大学の通信システムが担保されていないと、学生の直接的な不利益となることが想定される。 通信システムは、対応とれているか。
(法人) 適切なタイミングで通信システムの更新を進め、対応していきたい。
(委員長) 学生側の通信環境は整っているか。
(法人) 自宅の通信環境が不十分な学生がいるため、学内を開放しながら対応している。 対面授業とオンラインを併用している講義もあるため、時間割も考慮しながら、対応している。
(委員) 授業アンケートの回収について、教員自身が回収して報告書を作成することと比べ、事務局が回収することになると、教員はストレスに感じるがあると思う。授業アンケートは授業を改善するためには必要なことではあると思うが、学生の反応がいつもベストとも限らない。教員側のレスポンスはどうか。

- (法 人) 今までもアンケートの回収は工夫して実施してきた。指摘すべきことは指摘する学生も増えてきており、教員は学生の声を突き付けられている。
多くの大学で学生の声を踏まえて授業改善に取り組んでおり、教員も思うところがあると思うが、授業アンケートを実施していきたい。
- (委 員) 教員のストレスになると思うので、公表方法など、教員への配慮も必要かもしれない。
- (法 人) 情報の取扱いには注意したい。
- (委員長) アンケートのデータは、管理者と教員本人だけ見れば良い。アンケートを提出した学生の出席状況も把握することも重要。授業に出席していない学生がコメントすることもあり、アンケートデータの集め方は、工夫が必要。
- (法 人) 参考にさせていただきたい。
- (委 員) コロナ禍のなかで、オンライン授業を受ける学生もいれば、そうではない学生もいると思うが、授業を受講する平等性を考えるときに、学生がどうしても行けない場合、ネットワーク環境など様々な問題点について、学校側として把握しているか。
- (法 人) 現在、オンラインとオフラインを併用して授業を進めている。学生との懇談会の中でも、授業を受講できなかった学生に対して、授業内容を保障してほしいと学生からの声もあり、どう情報を伝えるかを大事にしながら、授業の保障をしている。今後もしっかりと授業の質を担保しながら進めていきたい。
- (委 員) 学生や保護者からも授業の保障はどうするのかなど、報道で聞くことがある。また、モバイル WiFi などを支給して、ネットワークを提供する学校も一部あるとも聞く。予算の問題もあると思うが、学校として授業の保障について大事にしてもらいたい。
- (委 員) 授業アンケートについて、学生が建設的なコメントするためのガイダンスはあるか。
- (法 人) アンケート前に学生には、アンケートの記載についてアナウンスを実施している。
- (委 員) アンケートの評価項目は決まっているか。前に拝見したアンケートは自由記述だったが、例えば、教員の対応や授業の理解度等の評価項目について、5～1で学生がチェックし、その他にあれば記述してもらおうなど、自動的に評価が集計できる方法もある。
アンケートを整理することや理解することも大変になるため、評価項目を先に準備するとすごく簡単になると思う。
- (法 人) アンケートの中の例示の仕方も含めて、次年度検討したい。
- (委員長) マークシート形式アンケートの方が簡便で定量的にわかる。
学生の志望者が前年度に比べ、減少しており、気になる傾向である。その点について、どう対応しているか。
- (法 人) 大学の入試説明会や近隣の高校への大学説明などを更に強化していきたい。オープンキャンパスの状況や説明会の参加数に変動はないため、コンテンツの見直しを含め、対応していきたい。

(委員長) 今後、少子化により高校生が減少することはわかっている。またコロナ禍の影響を受けて、さらに志望者が減少することも懸念されるため、対応を求めたい。

(委員) とても大事なことで、公立大学法人化の効果が終わったという認識も考える必要もある。全国的な入試のなかでの長野大学の位置づけの分析も必要ではないか。大学のPR不足だけが要因ではなく、その他に要因があると思われるため、検証が必要である。

(法人) 委員の指摘事項については、大事なことと受け止めている。どうプロモーションしていくか、考えていきたい。

(委員長) 今の問題は、学部の将来計画に直接関係するもので気にしている。

(委員) 教員評価制度について、この評価委員会でもお話ししているが、内部で検討した結果、理事会から再度検討するよう指摘があったとある。これは教学側と理事会の認識に差があるということではないか。理事者とのコンセンサスを得ながら、しっかり進めてもらいたい。

(法人) 理事会と教員側で評価イメージがあわない部分もあり、現在、調整をしている。いくつかの調整事項があるが、今年度中には間に合わせたい。

(委員長) 評価の見える化の仕組みづくりをお願いしているのではないか。評価制度の位置づけを明確にしてもらいたい。

(委員) 台湾の大学との連携協定について、今後の予定はどう考えているか。

(法人) 引き続き、協定締結のため進めていきたいが、新型コロナウイルスの状況もあり、現在、具体的な話は進んでいない。

(委員) なぜ台湾の大学と協定を締結しようとしているのか。台湾は、英語と中国語を同時に学べると注目されていて、留学先としてライバルも多いかもしれない。

(法人) 本学教員が台湾の大学と関係があり、協定締結のきっかけとなっている。

(委員) このままの状況だと、学生の学べる機会の損失とならないか心配している。特に台湾は注目されており、デジタル分野も日本より進んでいる。物理的に移動できなくても、もしかしたら、何か方法があるのではないか。オンラインなど、探る価値はあると思う。

(委員長) 国際交流に関しては、コロナ禍で移動ができなくても、Webなどやる方法はある。長野大学の学生にとってもチャンスとなるため、積極的な対応をお願いしたい。
スタッフディベロップメントについて、他大学との交流も進んでおり、良いことと思う。教員評価も他大学の評価システムと比較しながら、進めてもらいたい。
適正な入学定員の見直しについて具体的な取り組みはあるか。

(法人) 収容定員を380人から340人とし、その割振りについては、現在協議している。

(委員長) 基本的には、間接経費は、研究費についてくる大学に必要な経費。教員には入ってこない維持管理費として、間接経費が予定されていて、その半分を教員にリターンするという事。

(委員) 大学の取り組みや研究成果や地域貢献について、地域や市民など対外的に見えづらい。もっと具体的に、見える努力をお願いしたい。コロナ禍について、大学の先生からどのような提言があったのかと問い合わせたが、ほとんど答えがなかった。いつもきれいな事は並ぶが、具体的に見えているのか。大学の取り組みを市民がどう受け止めて、どう評価するかは、次の問題と思う。

(委員長) 地域づくり総合センターは、当初から大学の重要施策だった。その活動の状況が、教員の活動だけに限定されると見えにくくなる。どちらかというと、産学官連携推進の部局として位置づけた方がもっと見えやすいのではないかと。教員の片手間でやるのではなく、地域と一体化した大学全体の取り組みとして、位置づけられれば、情報を吸い上げやすくなるのではないかと。

(法人) 地域にわかりやすい手法を考えたい。

(委員) 財務シミュレーションが重要である。公立化効果が終了し、次のステップに入っているなかで、今後、色々なパターンを想定し、引き続き進めてほしい。

(法人) 経済産業省など国からの資金の獲得などの検討し、予算の範囲内でどこまでできるか、検討していきたい。

(委員) 現状と乖離している事務手続きの見直しとは、具体的にはどういうことか。

(法人) 受託事業の受入規程がなかったため、規程を作成した。本来、公立大学法人化した際に規程を見直すべきだったが、時間的に間に合わなかったため、私立大学の規程が引き継がれているものがある。第1期中期計画中に整理したい。

(委員長) 第1期中に整理していただきたい。
大学広報にあるプロポーザル方式とは何か。

(法人) 予め予算額を決めておき、その予算範囲で、業者から提案してもらい、業者を選定する方式のこと。

(委員) 研究推進について、実施することが並列となっており、全体として1番何が大事なのか。メリハリをつけることも大事かと思う。全て中途半端になってしまうので、整理が必要ではないか。

(法人) 参考にしたい。

(2) 中期目標期間の業務実績評価（見込評価）実施要領（案）について（資料2、資料3）

○資料2、3に基づき、事務局が説明

(委員長) 実施要領（案）について、意見なしで良いか。

(委員) 意見なし

(3) 長野大学大学院設置に伴う対応について(資料4、資料5)

○資料4に基づき、長野大学大学院の概要について、長野大学が説明

○資料5に基づき、中期目標の変更と料金の上限の変更について、事務局が説明

(委員長) 中期目標の変更について、意見なしで良いか。

(委員) 意見なし

3 その他

(委員) コロナ禍において、学生や教職員のメンタルヘルスは、どのような状況か。

(法人) メンタルヘルスに関しては、精神面が心配な学生はおり、丁寧に対応していきたい。

(委員) メンタルヘルスを担当する専門部署はあるか。

(法人) 保健師など専門的な職員が在籍している学生相談室と学生支援担当で対応している。

(委員長) コロナ禍のなかで、大学院学生の確保と周知については、配慮されているか。

(法人) 大学院については、記者会見を実施し、その後、説明会を2回実施している。長野市社会福祉協議会を会場にした説明会では3人、上田市では本学を会場にして、7、8名が参加している。今後、関連団体へお伺いして大学院の説明を行い、受験者を集めたい。

(委員長) 博士課程となると、母集団が小さくなり、学生の確保が難しいのではないか。

(法人) その説明会の中で博士課程の志望者が3名いた。志望者は増えると予想しており、学生を確保できる見込みである。

(委員長) 修士課程も少なく、さらに博士課程も少ないため、しっかりとした対応をお願いしたい。Webなども活用した対応も必要ではないか。

(法人) Webの活用については、説明会のときにシンポジウムを開催し、Web上に公開している。

(委員) 修了後の就職先の見通しはどうか。

(法人) 修士課程については、現場の方が多いと思う。基本的には、高度な知識を身に付けて、福祉現場に戻って、福祉の質を高めてもらうことになる。そのうちの何人かは、博士課程に進むと思う。就職先については、社会人から学び直す方は、福祉現場に戻ることになると思う。マネジメントを学んで施設長など目指すことになるかと思う。

大学院学生が学部生とつながりを持ちながら、学部へ浸透させて、学部生が大学院に関心を持ってもらえるよう、学生を育てていきたい。

(委員) 教員の中で丸合教員は教えてもらえるか。どういう領域の方が丸合として何人いるか。丸合の場合、何本柱とか、柱立てて構築していた。どういう領域の方か。丸合の方が中核になる。大学院博士課程と漠然としているのではなくて、どういった分野に関するのか知りたい。どういう柱が立つのか、知りたい。

(委員長) プライベートなものではなくて、組織概要で良い。どういう分野が中核となって、大学院が構成されているのか。情報があれば提供いただきたい。

(法人) 後日、お知らせしたい。

(委員) 大学院をつくるは大変だが、できると学部も成長していく。重要なコアになると思う。大学院を大事に育てると学部全体のレベルも育つし、学生の意識も変わってくる。是非、頑張ってください。理工系学部も進んでくると全体像が見えてくると思うので頑張ってもらいたい。

4 閉会